

天界の秘義 第三章

182-318



3:1 さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

3:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」

3:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。」

3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」

3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。(主に関する信仰の事柄を本当にそうなのか問うよう説得し、理性もそれに同意した)

3:7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。

3:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の中に身を隠した。

3:9 神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」

3:10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」

3:11 すると、仰せになった。「あなたが裸であることを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」

3:12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

3:13 そこで、神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということを
したのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」
(残っている直感力から自分たちが悪にいることを直観した)

193 → 自然的な善が残っていた。

190 最古代教会の第三の状態

蛇	感覚
女	自己愛
男	理性

194

3:1 さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

最初の疑問の状態：自分が見て、感じなければ、啓示を信じることができない

野の獣：外部人間のあらゆる情愛

女：プロプリウム

蛇：感覚的部分（地のそばで生活している・肉体の隣）

蛇の毒：信仰に関する神秘を感覚による証拠に基づき、導き出すこと

世俗的・物質的・日常的・自然的 195

→賢人の声に耳を貸そうとしない推論

唾にする蛇、火の蛇

197「慎重さ」「蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。」マタイ10:16

真鍮の蛇：ただお一人天的人間であられる主がすべてを備え、心をお配りになる。

詩編58:3 悪者どもは、母の胎を出たときから、踏み迷い、偽りを言う者どもは生まれたときからさまよっている。

58:4 彼らは、蛇の毒のような毒を持ち、その耳をふさぐ耳しいのコブラのようだ。

58:5 これは、蛇使いの声も、巧みに呪文を唱える者の声も、聞こうとしない。

アモス5:19 人が獅子の前を逃げて、熊が彼に会い、家にはいって手を壁につけると、蛇が彼にかみつくようなものである。

5:20 ああ、まことに、主の日はやみであって、光ではない。暗やみであって、輝きではない。

3:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。

3:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。」

食べても良い園にある木の実：(最古代教会から啓示された善と真理)

→直観力によって得た善と真理 199

神が食べてはならないと言った、園の中央にある木の実：

自ら学んではならない信仰の善と真理

あるいは

感覚と記憶知から得た信仰の善と真理

園の中央：最奥

天的人間の最奥：愛とそこから派生した信仰

天的な靈的人間homo caelestis spiritualis の最奥：信仰 200

天的人間の才能：善から真理を知る、愛から信仰に関する事柄を知る

その後の才能：真理によって善の知識を得る、

信仰の知識から愛に関する知識を得る

→知識だけとなってゆく

洪水後

202あなたがたが死ぬ: そのような信仰、すべての英知や知性は滅んでしまうから。

最古代教会・天的人間:

感覚的な事柄・記憶知から、信仰に属することを、
学ぶこと(食べる)を禁じられていただけでなく、
考える(触る)ことさえ禁じられていた。

天的な生命が、霊的生命そしてそれより下へ下降してしまう。

より天的な人間: 信仰と名のつくものや、霊的な起源からくるものを認めることすら嫌う。
他人がそれを語るなら、信仰の代わりに愛を直観する。

信仰に関しての講釈や知識について聞くことには、耐えられない。

→ マタイ5:37 だから、あなたがたは、『はい。』は『はい。』、
『いいえ。』は『いいえ。』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。

霊的天使: 信仰に関して語り、知性的・理性的・記憶から信仰の事柄を確認はするが、
それを根拠として、結論することはない。

信仰の真理への直観力を主から与えられている。

これは霊的直観力であり、主から生気を与えられた良心・善悪の意識

204

3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。

3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

それを食べるその時、あなたがたの目が開け:

感覚や知識に関する事柄から信仰に関する事柄を点検するなら、そうでないことを見てしまう。

あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになる: 自分が神のようになって、自分を導くことになる

205

前節: 傾きはしたが、許されないと直観していた。

本節: 父祖から聞いたことが本当かどうか、見ても許されるのではないかと疑い始めた。

最後には自己愛が優勢となって主のように、自らを導けると考え始めた。

206

自らを導けると考えた者たちの思考方法

207

3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く(貪欲)、目に慕わしく(幻想)、賢くするというその木はいかにも好ましかった(悦楽)。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた(理性の同意)。

208

最古代教会子孫の第四世代; 感覚と記憶知によって確認できなければ信じることはできない

210

プロプリウムの性格: 自己愛と世俗愛からわき出る悪と偽り

嫌悪を愛と呼び、闇を光りと呼び、死を生と呼ぶ。

「足なえ」「盲人」

211

3:7 このようにして、ふたりの目は開かれ(内からの声によって)、それで彼らは自分たちが裸であること(無垢ではなく悪にいること)を知った。

民数24:3 サム I 14:29

裸、すなわち無垢でいることが、恥・不名誉と考えた。

悪を思考しているという意識に気づいたため

エゼ16:22, 23:29 黙示3:18, 16:15 民数24:1 出エ28:42,43

214

裸: プロプリウムの導くままに委ねられている。

知性も英知も信仰もなく、真理と善に関して、まる裸となっている。すなわち悪にいる。

イザヤ

47:10 あなたは自分の悪に拠り頼み、『私を見る者はない。』と言う。あなたの知恵と知識、これがあなたを迷わせた。だから、あなたは心の中で言う。『私だけは特別だ。』

47:11 しかしわざわいがあなたを見舞う。それを払いのけるまじないをあなたは知らない。災難があなたを襲うが、あなたはそれを避けることはできない。破滅はあなたの知らないうちに、突然あなたにやって来る。

エレ

51:17 すべての人間は愚かで無知だ(記憶知によって愚かにされる)。すべての金細工人は、偶像(彫像:偽り)のために恥を見る。その鑄た像(悪)は偽りで、その中に息がないからだ。

216

そこで、彼らは、いちじくの葉(自然的善)をつづり合わせて(言い訳)、自分たちの腰のおおいを作った(恥を見る)。

彼らは、無垢ではなく、自然的善しかもちあわせていない。自然的善で悪を隠し、自然的善にいたことで恥を感じた。

ぶどうの木: 靈的善

いちじく: 自然的善

21:19 道ばたにいちじくの木が見えたので、近づいて行かれたが、葉のほかは何もないのに気づかれた。それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように。」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。



218

3:8 ~~そよ風の吹く~~(息の:まだ教会が直観力を残していた)ころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた(恐れたていた内からの声を聞く)。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて(内からの声を恐れて)園の(真ん中にある)木(たった1本残っていたarbor単数)(自然的善)の間に身を隠した。
תַּוֶּק tawek

219

園の中をただ行く神なるエホバの声:恐れていた声を聞く

הָלַךְ halak 一般的な動き

220 ただ行く声:わずかにしか直観力が残っていないため、ひとりで響き、聞かれない声

221 息の日(昼)auram diei: 教会がまだ直観力を残していたころ

רוּחַ ruah, aura

222 主の御顔:慈悲・平安・善のすべて

223 主はすべての者を慈悲をもって見ておられ、決して誰からも顔を背けられない。
悪にいる者は自分の顔を、主から背けようとする。

224 主の御顔:慈悲・平安・善のすべては、直観力を持つ人たちのが、声を聞くより所となっている。良心を持つ者にも常に慈悲として働くが、受け入れ方によって異なる。
ここで語られる最古代教会の子孫は、自然的善にいたので、恐れ恥じて隠れた。
自然的善の中にさえいない者は、恥にも無感覚。

226

3:9 神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」

3:10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」

主はあらかじめすべてをご存じだが、人に「どこにいて、何をしているのか」と問われるのは、人が認め、それを口にするようにするため。

227 内からの声dictamenと良心conscientiaがどこから来るか？

人は主によって、霊と天使を通じて支配されている。悪霊が支配しようとする時、天使が悪と偽を防ごうとして戦いが起きる。これが直観、内からの声、良心として感じられる。

228 信仰の真理と、愛の善に反することが入ってくると、天使たちはすばらしく精妙な力で直観する。

229

3:11 すると、仰せになった。「あなたが裸であることを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」

3:12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

3:13 そこで、神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」

プロプリウムが愛おしいあまり、見て感じなければ何も信じないほどに、理性は欺かれてしまった。

230

最古代教会の悪は自己愛、家を中心に家族とともに暮らしていたため、現代ほど世間愛が強く無かった。

231

その悪は、主とそのみことばを信じず、自分とその感覚を信じたこと。
(これは現在の教会までいたる)

232

現在はさらに悪化

記憶知によって、感覚さえ信じなくなった。→筆舌につくせない暗闇

confirmare incredulitatem sensuum possint per scientifica antiquis ignota

233

記憶知だけで信仰の神秘を探求することは、ラクダが針の穴を通るくらい不可能
記憶知と感覚は、天的靈的なものに比べれば、粗雑すぎて、必ず誤ってしまう。

233-2(いかに粗雑であるかの例)

人は自らは悪しか行えず、主から顔を背ける

→人が行っているのではなく、人のもとにいる悪霊が行っている。

→悪霊も行っているのではなく、彼らが自分のものとした悪自体が行っている。

→しかし、その人も罪に定められる。

→それにもかかわらず、人は主無しには生きておられない。

人は自らは善は行えず、主へも向けない。

→これは天使が行っている。

→実は天使も善を行えず、主おひとりが行っている。

→しかし、人が自らの行いとして、善を行い、主へ向かうことも可能。

以上は、感覚・記憶知・哲学からでは決して理解できず、否定される。

233-3

信念を感覚や記憶知におく者は、疑念にとらわれるだけではなく、否定に導かれる。

すなわち、厚い闇に覆われ、貪欲へと進む。

234 教会の継続する状態が、洪水にいたるまで描かれている。
教会が全く破壊され、主が世に来られ、人類を救済することが予言されている。

3:14 神である主は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。

(235 感覚に拠らなければ何事も信じない。感覚は自らをのろい奈落のものとなる)

3:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとにかみつく。」

(すべてが地獄に突入しないように、主が世に来られることを約束される)

3:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのみごもりの苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」

(教会はプロプリウムを愛するあまり真理を信じることができないが、理性が与えられ支配する)

3:17 また、アダムに仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。

(理性は同意し、自らをのり、奈落的なものとなる。理性は残らず、理屈・詭弁だけが残る)

3:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。(239 のろいと荒廃とその野生化した性格)

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」(人ではなくなる)

241 最古代教会の人間

視覚は単なる道具



天界的・神的事柄を想う



世間や地球上の事物

会話



単語の音

単語の意味

単語の普遍的意味

241 その子孫

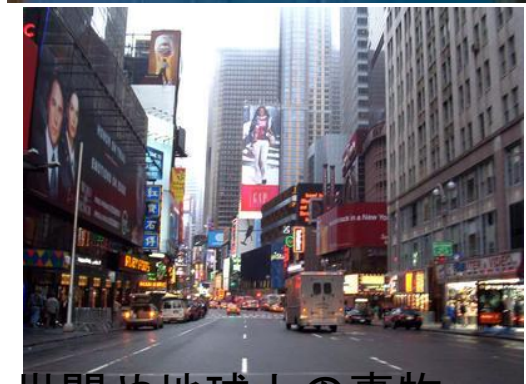
視覚が大切なものとなる



愛し
執着



天界的・神的事柄が見え
なくなる



世間や地球上の事物

会話

音・文法、断片
で判断

単語の意味

単語の普遍的意味

3:14 神である主は蛇に仰せられた。:子孫たちは墮落の原因が感覚にあると気づく。

「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜(獣:情愛)、あらゆる野の獣(再生した情愛246)よりものろわれる。

:感覚的なものが、天的なものから物質的なものに向けられる。(のろわれる)

243 内部人間に適合・従属していた→感覚を内部人間よりも重視。

245「主は誰ものろわない、怒らない、試練に落とさない、罰さない。これはすべて地獄の役目。」

以上の普遍的な考えを習得した上で、主は罰の悪と試練の悪を善に変えて、すべてを支配・配置されるかを学ぶ。みことばを学ぶときは、最もa communissimis普遍的な真理によるのが秩序。

おまえは、一生、腹ばいで歩き、:感覚は決して天界のものを見上げることができず、下にある物質的・地上のものしか見ることができない。

247(上)頭・胸・腹(下)

248 直立して歩く・上を見上げる・前を見る←→地面にかがむ・下を見る・後ろを見る

ちりを食べなければならない。:物質的・地上のものからしか生きることができない。すなわち地獄のものとなる。

3:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとにかみつくと傷つける。」

主の地上への到来を告げる最初の預言

蛇：一般的にあらゆる悪 251 心の感覚的なものそして記憶知から、あらゆる悪が起こる。

特に、自己愛

隣人と主に対する嫌悪

(嫌悪 odium) → 毒である嫌悪の種類によって分化

蛇・毒蛇・

コカトリス(バジリスク)：偽りから出た悪

跳ぶ炎蛇：自己愛からくる貪欲

ここに出る蛇は黙示録では、大きな赤い竜12:3

世界を欺く悪魔・サタン・旧い蛇12:9,20:2

悪魔・サタンとは特定の悪魔やその王子ではなく、全ての悪霊・悪

女：教会

蛇の子孫：不信心 無信仰

女の子孫：主への信仰 255 教会と呼ばれるのは主への信仰の故

彼：主ご自身

蛇の頭：一般的には悪の支配

自己愛の支配

踏み砕く：「腹ばいになって塵を食べるため」押し下げる

かかと：最低の自然的なもの



コカトリス：雄鶏をトカゲあるいはヘビと合わせたような姿の伝説上の生き物。雄鶏の産んだ卵から生まれる。さらに、その卵をヘビやヒキガエルなどが温めると孵化する。飼っている主の家にいる人物から少しずつ血を吸い、やがて死に至らしめる。

252 女=教会、天界 ←→ 主

結合はプロプリウムによって行われる。
プロプリウムなしには結合は不可能。

天界的プロプリウム

主から与えられる

無垢・平安・善が吹き込まれる

プロプリウム

自己から

違いは天界と地獄ほどある

253 教会が女と呼ばれるのは、天界的プロプリウムのため。

256 女の種:主への信仰

主ご自身も、女の種(子孫)と呼ばれる。

∵主お一人が信仰(宗教的真理・信念)を与えられるから

神的・天的プロプリウムと、

人間的本質の内にある人間のプロプリウムを結合させて

一つになることで世界を救われた。

257 蛇の頭:悪の支配 自己愛の支配

地上のあらゆる物に対する支配

→天界のあらゆる物に対する支配→主ご自身への支配



259 かかと: 最も低い自然的なもの、物質的なもの

創49:17 ダンは、道のかたわらの蛇、小道のほとりのまむしとなって、馬のかかとをかむ。それゆえ、乗る者はうしろに落ちる。

ダン: 記憶知

創25:26 そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブと名づけた。

ヤコブ יַעֲקֹב = かかと יַעֲקֹב

蛇が傷つけることができるのは、最も低い自然的なもの
霊的なものはほとんど
天的なものは全く→遺りの物

但し、それが毒蛇では無い限り 毒 = 嫌悪・憎悪

洪水以前: 感覚的原理・自己愛

ユダヤ人: 感覚的事物・伝統・ささいな事柄・自己愛・世間愛

今日 : 感覚に関する事・記憶知に関する事・哲学に関する事、同じ物への愛

261

3:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのみごもり(思考)の苦しみを大いに増す(戦いと不安)。あなたは、苦しんで子を産まなければならない(産み出す全ての真理)。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼(理性)は、あなたを支配することになる。」

263 感覚的な部分がそむき、悪霊が力強く戦い始め、天使が苦勞する。

イザヤ

23:4 シドンよ、恥を見よ、と海が言う。海のとりでがこう言っている。「私は産みの苦しみをせず、子を産まず、若い男を育てず、若い女を養ったこともない。」

23:5 エジプトがこのツロのうわさを聞いたなら、ひどく苦しもう。

シドン: 信仰の知識を持っていたが、記憶知にしてしまい、不妊となった者。

267

3:17 また、アダムに仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い(理性が同意した)、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地(外部人間のすべて)は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない(教会の最後にいたるまで)

268

Terra 大地

Humus 土壌・土地 : 再生後 天界の種が植えられる : 外部人間(情愛や記憶)

Agro 畑

内部人間にはプロプリウムはない。

内部人間に善と真理が存在しなくなると、人は外的・物質的になってしまう。

しかし、

主によって深く隠されている。それは外部人間が停止してしまわない限り現れない。

→ 試練・不幸・病・肉体の死

理性は外部人間に属し、内部人間と外部人間の媒介

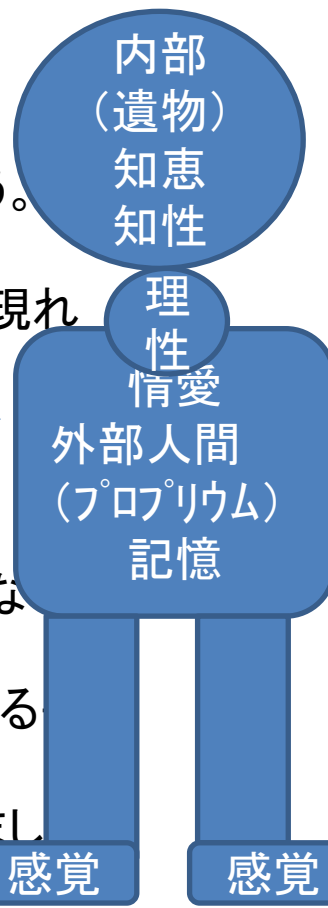
知性と知恵は内部人間に属する。

理性が物質的なもの等に同意してしまうと、内部人間の存在さえ知らなくな

269 呪われる: 外部人間は内部とのつながりを失ってしまう。

270 悪霊が働き外部人間を支配し、天使は内部人間に留まるが、働きかけるのが存在しない。

死人: プロプリウムと理性が協働し、試練や霊的争闘さえ存在しない。最も痛まし



3:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ(災いと荒廃)、あなたは、野の草を食べなければならない。(人は野獣のように生きる)

人 :主から内部人間を通して受けるに依じて、人となる

野獣:内部人間が外部人間から離れてしまい、ごく一般的にしか働きかけることができない。

死人:主から生命の流入は受ける霊的実体は持ち、推論は可能だが、悪用して悪の生命となる。

275: 洪水直前の最古代教会の子孫

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧^{אֵלֶּיךָ}を得、(天的なものとは逆に)

ついに、あなたは土(外部人間)に帰る。あなたはそこから取られたのだから。(再生前の外部人間に戻る)

あなたはちり(有罪、奈落)だから、ちりに帰らなければならない。

糧^{אֵלֶּיךָ} : 天使の食物である霊的・天的のものすべて

民 21:5 民は神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした。」

21:6 そこで主は民の中に燃える蛇を送られたので、蛇は民にかみつきました、イスラエルの多くの人々が死んだ。

→ 苦難・涙・悲惨のパン

3:20 さて、人は、その妻の名をエバと呼んだ。それは、彼女がすべて生きているものの母であったからである。

3:21 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。

3:22 神である主は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

3:23 そこで神である主は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。

3:24 こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

280 最古代教会・その退廃～洪水～絶滅

281 天的な最古代教会 主への信仰が生命となり エバ^{הַבַּיִת} 生きている者の母と呼ばれる

282 子孫の第一世代:天的・靈的善

第二・第三世代:自然的善(エホバが作った皮の衣)

283 第四世代:自然的善が消滅、「信仰の天的なもの」が与えられるなら滅びる
「彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

284 第五世代:善と真理が奪われ、再生以前に戻る「人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。」

285 第六・第七世代:善と真のあらゆる知識を奪われ、不潔な愛と狂信にいた。
「神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。」 冒とくから守る。

287

3:20 さて、人(最古代教会)は、その妻(教会)の名をエバと呼んだ。それは、彼女がすべて生きているものの母(最初の教会)であったからである。

生きている:「主への信仰」を持っている＝生命がある

主お一人が「人」

主から、天的な者が「人」主に「似ている」

教会のメンバー「人」→「獣」から区別

hawwahחַוָּה 生命

292

3:21 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。

主が靈的・自然的善を教えられた。

294（意味の啓示）と（みことばでの比較対照）

「皮の衣」

「裸」 最古代教会 無垢

「裸」「むき出し」無垢を失い、悪にいることを意識

子ヤギ・羊・山羊・穴熊・雄羊の皮：靈的・自然的善 （天的善は覆われない無垢）

ヤコブ：エサウの上着 雌山羊の子の皮でイサクに近づいた

十戒の箱：雌山羊の皮、穴熊の皮で覆われていた

3:22 神エホバ(単数=主)は仰せられた。

「見よ。人はわれわれ(複数=天界)のひとりのようになり、善悪を知るようになった。(天的となり知恵を得た)

今、彼が、手を伸ばし、いのち(複数:愛と信仰)の木からも取って食べ、永遠に生きない(永遠に冒とくの状態でいない)ように。(信仰の真理を得て、滅んでしまわないように)」

302

ヨハネ12:40「主は彼らの目を盲目にされた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見、心で理解し、回心し、(することがなく)、そしてわたしが彼らをいやす、ということがないためである。」

マタイ 13:13 わたしが彼らにたとえで話すのは、
彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。

知る←→認める

知って認めなければ、知らないのと同じ
認めた後、冒とくしないように

303

人は納得したこと、すなわち認め、信じたことで生命を得る。
しかし、納得しないこと、認めもせず、信じないことは、影響しない。

305

3:23 そこで神である主は、人をエデンの園から追い出されたので(知恵と知性を剥奪)、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。(物質的になる)

306

3:24 こうして、神は人を追放して(善を意志し真理を理解することがない)、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東(東からエデンの園に向かって)に、ケルビム(主の摂理)と輪を描いて回る(自転する)炎の剣(自己愛)を置かれた。

洪水で滅びた第六・第七世代の子孫

310

天的種子:愛が心全体を支配し、一つとする

霊的種子:信仰の可能性と真理の理解で良心を注入

311

洪水で滅んだ者:ある山の下にある、他の地獄とは分離された地獄
妄想と狂信

312

洪水以前

東からエデンの園に向かって

自転する剣の炎

生命(複数)の木

洪水以降

エデンの園から東に向かって

自転する炎の剣

生命(単数)の木